■ IICLO MAGAZINE NO.166---------- 2024/6/20
★★★ 大阪国際児童文学振興財団 メールマガジン ★★★

今年の梅雨入り宣言は遅れ気味とのこと。晴雨兼用傘を重宝する今日この頃です。
現在会員登録数 4,243 人さま。次号は７月 20 日発行の予定です／

◇◆◇ 目次 ◇◆◇

【１】お知らせ
【２】コラム
《１》この本読んだ？
《２》イーハトヴ周遊　宮沢賢治の童話を読破する
《３》子どもの本の珠玉のことば
《４》行って来ました！
《５》宮川健郎　私の出会った児童文学者たち
【３】全国のイベント紹介
【４】プレゼント

【１】お知らせ

● 英語圏児童文学会　西日本支部　夏の講演会
「イギリスで始まった絵本の仕事　絵本作家 きたむらさとしさん」
日 時：６月 29 日（土）14：00～16：00
会 場：大阪府立中央図書館 多目的室　定員：60 人　参加費：一般 1000 円
※申込期限：６月 26 日（水）＜会場にまだ余裕があります＞
※後日、動画配信あり。動画配信のみの申し込みも可。
主 催：英語圏児童文学会 西日本支部　（IICLO 共催）
詳細・お申し込みは↓
Peatix https://lecture2024-jsclewest.peatix.com

● ワークショップ「オランダの絵本作家 ハリエット・ヴァン・レークさんとミニ絵本をつくろう！」
子どもも大人も、音楽を聴いて楽しみながら、オイルパステルや色鉛筆を使ってミニ絵本をつくりましょう。
日 時：７月７日（日）13：30～16：00
会 場：大阪府立中央図書館 多目的室　定員：30 人　参加費：1000 円
対 象：小学２年生～大人
主 催：大阪国際児童文学振興財団（IICLO）
詳細・お申し込みは↓
http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#060707

● 寄付金を募集しています
当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。
※詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html
※Syncable（シンカブル）＝クレジットカードでご寄付いただけます。
　継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。
→ https://syncable.biz/associate/19800701/

● YouTube 版「本の海大冒険」　https://www.youtube.com/@iiclo1196
※公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/ml_youtube/index.html

● X（旧 Twitter） → https://twitter.com/IICLO_News

● Instagram https://www.instagram.com/iiclo_official/ new!

■――――――――――――――――――――――――――――――――――■
【２】コラム
■――――――――――――――――――――――――――――――――――■
****
《１》この本読んだ？ Yasuko's & Jun's Talk
****
『６ｄａｙｓ　遭難者たち』　安田夏菜/著　講談社　2024 年 5 月　対象年齢：中学生以上

＊今回のゲストは当財団特別専門員で、武庫川女子大学の遠藤純（Ｊ）さんです。

あらすじ：美玖は、認知症のおじいちゃんと槍ヶ岳に登ろうと約束したまま、おじいちゃんが死んでしまったことを後悔し、高校に入って登山部に入部するが、登山以外に学ぶことが多く、夏休みに行くはずの槍ヶ岳もキャンセルになり、４カ月で退部する。そんなとき、同じマンションに住む亜里沙に声をかけられ、亜里沙と、亜里沙のクラスメイトの由真と３人で日帰りの予定で鎌月岳に登る。予定より早く頂上についた３人は、予定を変更して温泉に寄ろうとして道に迷い、６日間、遭難する。その状況を３人の視点で描く。

Ｊ：遭難してからの６日間が実にスリリングで、一気に読了しました。
Ｙ：１回目に読んだときは、生きて帰れるかどきどきしました。いつ死んでもおかしくない状況が描かれており、誰にでも起こり得ることだと感じたので、どうすれば、より早く見つけられたり、帰れたりしたのか、自分だったらどうしただろうと読み終わったあともしばらく考え続けていました。
Ｊ：登山をする３人がそれぞれに問題を抱えていて、山に登ることによって、その問題の解決の糸口を見つけようとしているという設定も興味深かったですね。
Ｙ：美玖はおじいちゃんとのことがありました。亜里沙は二人暮らしの母が乳がんだったことを知り、心配で占いをしたら、鏡と登山がラッキーアイテムとあり、登山をすることにしました。由真は、母が離婚して再婚し、新しい父と双子の妹ができ、疎外感を抱きながらも「なんのなんの」を口癖に幸せなふりをしていました。そして、山の上でコーヒーを飲んで「無」になることにあこがれ、登山に同行することになります。
Ｊ：遭難の裏に、認知症の祖父の死、母子家庭かつ母の病、再婚家庭での居場所という現代の若者の問題が描かれている点が『むこう岸』（講談社　2018 年 12 月）などの作品のある著者らしいと思いました。そして、これらの問題は、３人が極限状態になってくればくるほどそれぞれが問題を直視せずにはいられなくなります。特に、外からは幸せそうに見える由真が実はリストカットを試みていた、つまり生きていることの実感をリストカットで得ようとしていた、というエピソードがショッキングでした。
Ｙ：この３人は、それぞれの抱えている問題を自問自答し、ほかの二人にすべてを打ち明けたりはしません。もし、私が死ぬかもと思ったら、もっと自分

をさらけ出したかもしれないなと思いました。とはいえ、登山を題材に、登山の怖さと魅力と同時に、命とは？家族とは？自分とは？ということを描いた力作だと思いました。

****
《２》イーハトヴ周遊　宮沢賢治の童話を読破する
****
第 106 回「オツベルと象」
　牛飼いが物語る

「オツベルと象」は、詩人・尾形亀之助が編集して、大人のための童話雑誌をねらった『月曜』創刊号（1926 年 1 月）に発表されました。タイトルのわきに、「……ある牛飼いがものがたる」と記されています。

本文は「第一日曜」「第二日曜」「第五日曜」の章にわかれていて、これは、掲載誌のタイトル『月曜』とのかかわりを感じさせますが、作者がそれを意識していたかどうかはわかりません。

さて、「第一日曜」「第二日曜」の章は「オツベルときたら大したもんだ。」と語り出され、「第五日曜」は「オツベルかね、そのオツベルは、おれも云おうとしてたんだが、居なくなったよ。」とはじまります。いずれも、「おれ」という牛飼いが語っているのです。結末のひとこと、「おや、〔一字不明〕、川へはいっちゃいけないったら。」も、話の聞き手に呼びかけているのか、自分の牛にいっているのか不明ですが、牛飼いのことばです。

「第一日曜」の冒頭は、「オツベルときたら大したもんだ。稲扱器械の六台も据えつけて、のんのんのんのんのんのんと、大そろしない音をたててやっている。」とつづきます。その稲扱器械の小屋に、どういうわけか、白象が入ってくるのです。白象は、オツベルにずいぶん働かされ、食べ物の藁はだんだん少なくなって、疲れはてていくことになるのですが。

「宮沢賢治の童話は口語であり、特に話しているように書かれる場合、方言らしき表現が散見される。」として、「オツベルと象」にも言及するのは、日本語研究者の小島聡子です（「宮沢賢治の表現にみる日本語の「あわい」」2024 年）。器械の音の擬音語の「のんのん」は、勢いのよいさまを表す岩手方言の慣習的オノマトペの一つでもあることを明らかにした川越めぐみの研究（「東北方言から見た宮沢賢治の童話のオノマトペ」2007 年）も紹介しています。

小島は、「大そろしない音」の「大そろしない」は、方言の「「おそろしない」の語頭の「お」を長音化して強調した語」と述べています。「「おそろしない」は「恐ろしい」の語幹に接辞「ない」が付いた形である。岩手県方言では「ない」のついた形容詞が多く、また「ない」の付く形と付かない形を併用する例も多い。」ともいうのです。

「のんのんのんのんのんのん」などは宮沢賢治が創作したオノマトペと考えられて、感心されてきたものですけれども、日本語研究者たちは、少しちがう視点をあたえてくれます。「オツベルと象」の語り手である牛飼いは、ふだんは方言話者でしょう。この牛飼いの語りをとおして、賢治童話が地域のことばと深くつながっていることが見えてきます。（馬車別当）

（本文の引用は、新潮文庫版『新編 銀河鉄道の夜』によりました。）

****
《３》子どもの本の珠玉のことば　６０
****

　自分はもういままでとはちがう。飛行機が行ってしまったことが、自分を変えた。失望に打ちのめされ、生まれかわった。もう、いままでと同じではないし、もとにもどることもない。それが真実のひとつ、新しく知ったことのひとつだ。もうひとつの真実とは、自分はもう死のうとはしないだろうということだ。もう二度と、死にとりつかれることはないだろう。
　生まれかわったのだ。

（『ひとりぼっちの不時着』ゲイリー・ポールセン/作　西村醇子/訳　安藤由紀/絵　くもん出版　1994 年 7 月　p.145-146）

13 歳のブライアンが小型飛行機に乗ってカナダの油田で働く父に会いに行く途中、パイロットが心臓発作で死に、２人を乗せた飛行機がカナダの森林地帯に不時着し、ひとりで生き抜く物語です。

蚊に襲われつつ、湖の水を飲み、何とか居場所を作り、ベリーを食べ、熊に遭遇したりしながらも生き続け、持っていた手おのを使って火を起こします。その過程は、まるで、短い時間で人類の歴史を駆け抜けているようです。こうして助けを待ちつつ生き延びているときに、飛行機がやってきますが、ブライアンの上げたのろしにも気づかず、去ってしまいます。

それから、ブライアンは引用のことばの通り、いちど死んで、新しい自分として生まれかわり、失敗をしながらも魚をとり、鳥肉を手に入れる方法を見出します。そんな時、今度は竜巻がやってきます。

ブライアンが一人で暮らしたのは最終的には２か月になりますが、その生活がいかに困難の連続であるかが描かれます。それでもあきらめずに知恵と工夫で生き続けるブライアンの様子が、人間の生きる力を感じさせてくれます。ブライアンの両親は離婚しており、彼は、離婚前に母親がほかの男性と不倫していた現場を見て、父親にそのことを告げようと思って旅を始めます。結末は、そのことについて彼の考えが変わったことが書かれており、一人で過ごした２か月の重みを読み取ることができます。（Ｙ）

****
《４》 行って来ました！
****
兵庫県立美術館で９月１日まで開催されている特別展「描く人、安彦良和」に行ってきました。安彦良和は、「1947 年に北海道遠軽町に開拓民の三世として生まれ」、「進学先の弘前大学では学生運動に参加、その後上京して虫プロダクションの養成所に入り、アニメーターとしての歩みを始めました」（図録『描く人、安彦良和』毎日新聞社　2024 年 6 月　「ごあいさつ」より）と紹介されています。

「宇宙戦艦ヤマト」、「起動戦士ガンダム」（1979-80）などのアニメーションで大人気を博し、『アリオン』で漫画家としてデビューし、1989 年の『ナムジ』以降は漫画に専念します。2015 年に自らの漫画『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』のアニメーション化を機に、アニメーション制作の場に復帰。漫画も描き続けています。本展覧会では、安彦良和のこれらの足跡を、1400 点以上の資料を使って６章に分けて紹介しています。

「１章　北海道に生まれて」には、中学校での授業の要点をまとめた手描きの「重点整理帳」が展示されていました。歴史のノートでは、同じ時期の世界と日本のできごとがノートの左右に書かれており、構成力に驚きました。また、キャラクターがでてきてユーモラスに説明するなど、学習漫画的な要素もあって、アニメーション作りの才能の萌芽を感じました。大学生のときに描いたインクで描かれた漫画も迫力あるストーリー展開で、コマ割りや巧みな人物像が心に残りました。

２章以降は、アニメーションの絵コンテ、ポスター用イラスト、初期から決定までのキャラクター案、企画資料、構成案、セル画のための原画などが展示されており、同時に、資料に対応するアニメーションも部分的に放映されていました。そこからは、キャラクター設定や背景、映像の動きをいかに意識的に作っているかが伝わり、映像と資料を何度も見比べました。子どものときにみた「宇宙戦艦ヤマト」や「機動戦士ガンダム」は特に懐かしく感じました。

後半には多くの漫画作品の原画が展示されていました。日本の神話を題材にした作品もあり、読んでみたくなりました。どの作品の人物もあたたかみがあって、苦悩する人物とともに、子どもが描かれていて心が和みます。安彦良和にもアニメーションにもあまり詳しくありませんが、今回の展示を見て、安彦良和作品や日本のアニメーションの歴史についてもっと知りたくなりました。（Ｋ）

兵庫県立美術館　https://www.artm.pref.hyogo.jp/

****
《５》 宮川健郎　私の出会った児童文学者たち　第１１回
****
第４章　宮川ひろ
その２　『春駒のうた』、『先生のつうしんぼ』、そして、『夜のかげぼうし』（前半）

これまでの三つの章では、坪田譲治先生、前川康男先生、今西祐行先生、あまんきみこさんのことを書きました。この先生がたと母宮川ひろのかかわりを軸に書きましたから、もう、すでに、母のデビュー作『るすばん先生』（ポプラ社 1969 年）のころまでを述べています。

第４章では、宮川ひろ（1923～2018 年）のデビュー以降のさまざまを作品に即して振り返ります。母もまた、私の出会った児童文学者にほかなりませんでした。

この連載では、「思い出話」を語るだけではなく、私の出会った児童文学作家や評論家の仕事に対する考察や、さらには、そこから、現代児童文学史のとらえ直しも試みます。ご愛読ください。

＜本編はこちらから＞
http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html

■－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－■
【３】全国のイベント紹介
■－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－■
● 佐藤史生原画展－決して眠らない魚（うお）のみる夢－

会期：６月28日（金）～10月20日（日）　※ 入場無料、休館日あり
会場：明治大学　米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓
http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html
※イベント情報をお送りください。当財団ＨＰに掲載させていただきます／

■――――――――――――――――――――――――――――――――――■
【４】プレゼント
■――――――――――――――――――――――――――――――――――■
今号のコラム《１》「この本読んだ？」で紹介しました『６ｄａｙｓ 遭難者たち』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ ご応募ください。
応募フォーム⇒　https://forms.gle/1GzdaWoDzE4pc7ku8
締切は７月10日（水）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編｜集｜長｜の｜つ｜ぶ｜や｜き｜
└┘└┘└┘└┘└┘└┘└┘└┘
パリ五輪まであとひと月。オリンピックは、国や地域を超えてのスポーツや芸術の祭典です。平和への思いをかみしめつつ、欧州を舞台に開催される筋書きのないドラマを楽しみたいと思います。（ＴＡ）
――――――――――――――――――――――――――――――――――――

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。
原則として返信はいたしませんのでご了承ください。
●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
●配信の登録・解除・変更は、
　http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html
●このメールの送信アドレスは配信専用です。
●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 http://www.iiclo.or.jp/
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581　FAX：06-6744-0582　E-mail：office@iiclo.or.jp

――――――――――――――――――――――――――――――――――――